

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議の内容を高めるため、近隣の方たちに、より当事業所のことを、知っていただくようにしたいと感じていた。先日、救急車を呼んだ時に、交番の警察官が、ここはどういう施設ですかと尋ねられたのが、印象に残っている。公的機関にですら、理解してもらえてないのが身体拘束は、離床センサーを使用している。今まで承諾書は、最初に頂くだけになっていた。また、経過については、ユニット会議で討議し記録を残していた。非常口か所は、電子ロックになっている。二階から一階への階段は急である。もう一か所の非常口はいつも開いている。非常階段を使用しての避難訓練は、今年度は一度しかしてないので、今年度3月にもう一度行う。電子ロックの非常口を使用しての避難訓練は、行ったことがない。備蓄は、災害用としてでなく、多めに購入してそれを当てるとしていた。	隣の店の店長さんは、考えていたが、小学校の校長先生やPTAの方や警察の方たちにも参加を呼びかけたい。当事業所のことを、知っていただき当事業所に協力していただけると、そしてこちらが協力できることを一緒に考えていきたい。	2月は、近隣交番の警察官の方と隣の店の店長さんをお招きしたい。次年度4月に、交流のある地域の二つの小学校の校長先生をお招きしたい。そして、来ていただける時期をお聞きして、年に二回は、来ていただけるように相談を持ちかけたい。	2ヶ月
2	6	身体拘束は、離床センサーを使用している。今まで承諾書は、最初に頂くだけになっていた。また、経過については、ユニット会議で討議し記録を残していた。非常口か所は、電子ロックになっている。二階から一階への階段は急である。もう一か所の非常口はいつも開いている。非常階段を使用しての避難訓練は、今年度は一度しかしてないので、今年度3月にもう一度行う。電子ロックの非常口を使用しての避難訓練は、行ったことがない。備蓄は、災害用としてでなく、多めに購入してそれを当てるとしていた。	承諾書は、三カ月一回取り直しをする。経過については、ユニット会議で取り上げ、記録は会議録だけでなく、業務日誌にも記載するようにし、できるだけなくて済むように職員の意識改革をする。電子ロックの非常口は、将来、昼間は開けた状況にしていき電子ロックの非常口を使用しての、避難訓練を行う。災害用の備蓄をする。	身体拘束承諾書を三カ月一回取り直しし始めた。経過記録は、ユニット会議に書き残し、業務日誌にも記載する。電子ロックの非常口は、日中開放すると夕方施錠しなければいけない。日中についても、開放は危険が伴うので、しばらく計画のみにしておく。	3ヶ月
3	35	非常階段を使用しての避難訓練は、今年度は一度しかしてないので、今年度3月にもう一度行う。電子ロックの非常口を使用しての避難訓練は、行ったことがない。備蓄は、災害用としてでなく、多めに購入してそれを当てるとしていた。	アセスメント・課題分析・ケアプラン作成・モニタリング流れと内容を再検討し、チームで向上していく。	年に二回の避難訓練を、中央の非常口を使用すると、電子ロックの非常口を使用してとに分けて行う。災害用の備蓄は、購入してから、半年に一回賞味期限を確認するために、点検を行う。	3ヶ月
4	26	ケアマネジャーと担当職員が利用者や利用者家族の意向を踏まえて介護計画を作成している。記録は、介護計画に沿って記録している。毎月のカンファレンスで、モニタリングをしている。	アセスメントは、利用者の言葉や表情を重視し介護者の主観を入れないようにする。課題分析とケアプラン作成は、チーム職員で行う。モニタリングは、様式を開発使用している。介護記録も書き方の工夫をする。ひもときシートを学び、チームに新しい考え方や書き方を浸透させる。		3ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	33	重度化や終末期ケアに関して、方針の明文化がないことが課題である。重度化した利用者の家族とは個別に話し合いを持った事はあるが、全利用者家族と話し合いがもてていない。	重度化、終末期ケアに関する方針をすること。	資料を集め、職員で話し合い、方針を作成する。家族会で議題として取り上げ、話し合いの場を持つ。	12ヶ月
2	4	事業所や認知症のことを知ってもらう為、より地域に働き掛けること。	運営推進会議に近隣の商店、学校長などに参加してもらうこと、また知って頂くこと。	近くの交番、隣接するスーパー店長に声をかけ、ゲストメンバーとして参加を依頼する。事業所の日常の場面を写真に取り、見て頂く等、知って頂けるように報告内容を工夫する。	6ヶ月
3	6	身体拘束についての経過記録をつけること、モニタリングしていくこと。	3ヶ月ごとに見直し、必要であれば同意を取る。また、経過記録をつける。	会議で取り上げ、必要かどうか、代替案はないか定期的に検討していく。	3ヶ月
4	23	出生からサービス利用に至るまでの生活歴を聞き取れていない利用者が多い。	より細かな情報収集を行い、生き甲斐のある、より良い生活支援に結びつける。	ケアマネ訪問時などに、ご家族に協力いただいで情報収集を行う。	6ヶ月
5	26	通い、訪問、泊まり、それぞれのサービス計画を立てること、計画に即した記録、評価をおこなうこと。	サービス計画を把握し、計画に即した記録をつける。	リーダー職員で計画、記録について話し合い、どういう記録をしていくか骨格を作る。	12ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。